

# 「水利」をテーマに「農」と「ふるさとの明日」を考えるキャンペーン 「水利が拓く 実りの明日へ」スタートします。

全国有数の「農業王国」として知られるふるさと新潟。  
かつて過酷な環境にあった大地は、水路やポンプ場といった農業水利施設や、  
田畑を計画的に整備する土地改良事業により大きく生まれ変わり、人々の食や暮らしを支えています。  
キャンペーン「水利が拓く 実りの明日へ」では、先人の業績に思いをはせるとともに、  
新潟の農業への理解を深め、その将来を考えます。



## ユリ

シベリアやソルボンヌ、シェイラなど香りを楽しめる品種が多いですね。用水設備が整備されていることで、水道や地下水のないエリアでも栽培が可能です。毎年変わらぬ品質を保つために、心を込めて育てています。ぜひファンになってほしいですね。



アライ 葵  
荒井 葵さん(新潟市南区)

香り楽しんで!



## アスパラガス

担い手育成のためのほ場整備をきっかけに、  
新発田でアスパラガスの栽培がスタートしました。価格の変動が少なく、安定した収入が見込まれるので、とてもありがたいです。  
病気になるまいよう目配りしながら、心を込めて作っています。茎が太く甘みがあり、お客さんからも喜ばれています。



農事組合法人 道賀 近藤信雄さん  
(新発田市)

心を込めて作っています!



水利施設を礎に自慢の逸品続々と。  
農業王国「にいがた」はさらに進化します。



## モモ

白根原産の白根白桃をはじめ、さまざまなモモを栽培しています。大雨の際には三つの排水機場によってたん水被害を防いでいます。  
モモの栽培に水管理はとても重要。信濃川と中ノロ川に囲まれた輪中地帯で安心して果樹栽培ができるのは、水利施設のおかげ。たっぷり日の光を浴びた南区のモモは甘くておいしい。多くの人に食べてほしいですね。



小林 隆夫  
小林 隆夫さん(新潟市南区)

甘くておいしいよ!!



## 茶豆

茶豆は独特の風味があり、味が濃いのが特徴。ビールとも合いますよ。安全安心でよりいいものを作ろうと常に心掛けています。品質には自信があります。西蒲原は海抜が低く、排水機場がない時代は、舟で稲を運んでいました。今では排水能力もアップしたので、安心して農業に取り組みます。



鷹尾 紀夫さん  
厚子 さん夫妻  
(新潟市西区)

ビールとの相性ぴったり!



## ナス

八石(はちこく)ナスは、古くから小国で栽培されてきました。皮が柔らかく、浅漬けがお薦めです。魚のあらと米ぬかを混ぜた有機肥料を使っているの、食味はとても良いですよ。  
ほ場整備を機に法人を立ち上げました。農地を集積したことで作業がやりやすくなりましたね。今後、後継者が定住してくれるよう願っています。

浅漬けで食べてみて!



農事組合法人 花の皆さん  
(長岡市小国地域)



## 酒米

「越神楽(こしかぐら)」は、農研機構北陸研究センターと地元の酒蔵が共同開発した酒米です。品評会向けの酒のほか、大吟醸や純米酒にも使われています。風味豊かなお酒ですよ。  
酒米の栽培面積が増えるにつれ、まとまった量の水が必要となっています。柏崎には、水源となるダムがあり、本当に助かっています。



農事組合法人 矢田 菅義典さん  
石里 芳和さん(柏崎市)

おいしいお酒になります!



親松排水機場(新潟市江南区)  
役割も果たし



上江用水路(上越市、妙高市)

生まれ変わる農地 先人の情熱今なお  
実りの秋を迎え、黄金色に輝く稲穂が風に揺れる広大な平野。新潟は現在、コシヒカリに代表されるコメどころですが、かつては水はけの悪い低湿地帯が広がり、「不毛の地」と呼ばれていました。相次ぐ洪水で3年に一度しか収穫できない「三年一作」、食味がさ米と酷評されました。  
この地を少しでも豊かにしたい。この切実な願いから、江戸後期から昭和にかけて、各地で放水路の開削や河川改修などが行われました。戦後は大型ポンプを備えた排水機場の整備などの大規模な土地改良事業が進み、新潟の農業は飛躍的な発展を遂げました。海抜の低い土地から水をくみ上げ続ける排水機場は、われわれの生活を洪水などから守る役割も果たしています。

一方、県内には水不足に悩んでいた地域もありました。田畑へ水を運ぶために、先人たちが苦勞して開削した用水路や農業用ダムなどの水利施設は、今なお地域の農業に欠かせない存在となっています。  
農村の環境が整備される中、その恩恵を受け各地で園芸作物のブランド化が進んでいます。先人から受け継いだ農業への情熱は、今も脈々と受け継がれています。

安全・安心な逸品をお届けします!



グリーンファーム清里 保坂 一八さん(上越市清里区)

## コメ

コシヒカリをはじめ、こしいぶき、みずほの輝きなどさまざまな品種を栽培しています。清流が育んだ安全・安心なおいしいおコメです。  
先人が私財をなげうって完成させた上江用水路は、農家にとってなくてはならない施設。平場、山間地にかかわらず、各集落の法人と連携しながら、清里区全体の農業を守っています。



## 「水利が拓く 実りの明日へ」キャンペーン連続講座 全3回 「水利の歴史と新潟農業の今」

「農業王国」の礎を築いた地域の農業水利施設や土地改良事業の歴史、そして農業の現在について学ぶ連続講座「水利の歴史と新潟農業の今」を上越市、長岡市、新潟市の3会場で開催します。  
講座では、水と関った先人の業績に詳しい郷土史家による講演や土地改良事業が育んだ農産物の生産者からの報告、また農業水利の専門家とホスト役の新潟大名誉教授、伊藤忠雄さんを交えた座談会を開き、施設や事業が果たす役割について意見を交わします。



■ホスト役  
新潟大名誉教授  
いとう ちくお  
伊藤忠雄さん

1944年、新潟市生まれ。67年、新潟大学農学部卒。専門は農業経営学。同大教授、副学長などを経て2010年に退職。15年3月まで放送大学新潟学習センター所長を務める。県内で活躍する農業経営者を引き意見交換する「新潟農業経営塾」を主宰。中山間地を歩き、「新潟の農」を積極的に発信し続ける。

講座受講希望の方は、参加者全員の郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望する会場名を記入し、はがきかファクス、メールでお申し込みください。  
申し込み方法  
《はがき》〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報社広告部 《ファクス》025-385-7476 《メール》minori@niigata-nippo.co.jp  
いずれも「水利が拓く 実りの明日へ」連続講座係と明記してください。  
応募多数の場合は抽選。当選者には参加証を発送します。寄せられた個人情報は、当選者の参加証発送のみに使用します。

上越会場	長岡会場	新潟会場
10月25日 木 午後6時30分～8時	11月11日 金 午後6時30分～8時	12月15日 木 午後6時30分～8時
上越市市民プラザ 第3会議室 【住所】上越市土橋1914-3	長岡市中央公民館 大ホール 【住所】長岡市幸町2-1-1 さいわいプラザ内	新潟日報メディアシップ 6階 ナレッジルーム 【住所】新潟市中央区万代3-1-1
世界かんがい施設遺産・上江用水路に代表される上越地域の水利施設や生産者の声を紹介します。	信濃川流域など中越地域の水利の歴史や土地改良事業の今、生産者の声を紹介します。	亀田郷をはじめとする下越地域の水との関わりや排水施設により守られている人々の暮らし、生産者の声を紹介します。
■出演者/清沢聡さん(郷土史研究家)、保坂一八さん(有限会社グリーンファーム清里代表取締役)、高橋賢一さん(株式会社ふるさと未来代表取締役)、綿貫賢さん(関川水系土地改良区事務局長)。	■出演者/今井雄介さん(長岡郷土史研究会顧問)、高橋正人さん(農事組合法人花の音代表理事)、石黒芳和さん(農事組合法人矢田農産組合代表理事)、武田勤さん(柏崎土地改良区事務局長)。	■出演者/藤井大三郎さん(新潟市都市政策部田園まちづくりアドバイザー)、鷹尾紀夫さん(枝豆生産者)、近藤信雄さん(農事組合法人道賀代表理事)、大野耕起さん(西蒲原土地改良区副理事長)。
3会場ともホスト役は伊藤忠雄さん(新潟大名誉教授)。		各会場とも 定員50人・入場無料